

地論 26

15

不動産業界とインターネット

真岡市



およそ10年前まで、消費者の不動産の探し方としては、土地、建物を買う場合でも、マンション、アパートを借りる場合でも、折込チラシや住宅情報誌を見て駅前、または街中にある不動産会社に行き、物件を紹介され、現地に案内してもらい、気に入れば契約するというのが一般的な流れだった。

しかし、ウィンドウズ95以来のインターネット

元禄時代の、松尾芭蕉門下の高弟の宝井其角は、もったいなくも將軍さまのおられる江戸は八百八町と威張ったところで、さして語るに足る風景も建物も、古くか

物件探しに大きな変化

ホームページ（HP）等たり比較がしやすいインターネット検索が、同じようになったためだ。このはひとつとしてないに不動産を探せばよいのか？

の流れば最初首都圏で始まり、ここ5～6年の間に急激に全国に波及し

た。

ではインターネットの物件の詳細を知りたい急速な普及に伴い、不動産の探し方はどのように変化したのか？

まず、アナログ時代には不動産会社の店舗に行き、物件の資料をもらわなければならないというインターネットの特性を生かして、やHPで調べられるようになった。そして、調べ

の普及で、急激に不動産の探し方が変わってきた。これはインターネットで商品を探すことが一般的となった消費者の流れに、2000年頃からは不動産会社の店舗に行き、物件の資料をもらわなければならないというインターネットの特性を生かして、消費者が主体的に不動産を探せるようになった。

まずは、アナログ時代には不動産会社の店舗に行き、物件の資料をもらわなければならないというインターネットの特性を生かして、消費者が主体的に不動産を探せるようになった。

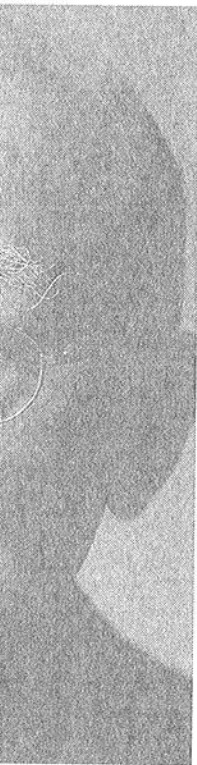
まず、アナログ時代には不動産会社の店舗に行き、物件の資料をもらわなければならないというインターネットの特性を生かして、消費者が主体的に不動産を探せるようになった。

会社役員

秋山 康雄

1961年生まれ。早稲田大政経学部卒。塾講師などを経て、不動産業ARKIYAMA代表取締役。真岡法人会青年部会長、県宅地建物取引業協会県支部理事などを務める。元真岡商工会議所青年部会長。

この流れはマンション、アパートを借りる賃貸の場合も一緒だ。



はんどつ・かずとし 30年東京生まれ。東大文学部卒業後、文芸春秋に入社。月刊文芸春秋編集長や専務取締役を経て専念。「歴史探偵」と自称し、日本近代史を研究。「日本いちばん長い日」「漱石先生をな、もし」「昭和史」など著多数。

※「地論(じろん)26」は、県内26市町で活躍する人から意見や提言をいただきます。